

笈ヶ島地内に建設の統合浄水場

燕市内各地区と弥彦村への送配水管整備

燕・分水地区は既存管路に
 吉田地区は新設送水管を吉田浄水場に接続
 弥彦村は吉田経由で弥彦配水池から

燕市議会水道事業更新対策特別委員会協議会
 燕市議会・水道事業更新対策特別委員会(斎藤信行委員長・全議員)は九日午前十一時過ぎから市役所で同委員会協議会を開き、当局から浄水場再構築事業の送配水管整備に関する取り組みについて聞いた。

トや事業実施方式などがまとまったことから、水道局経営企画課から報告している。

送配水方法としては、燕地区と分水地区は、統合浄水場から新設配水管を接続し、配水池に貯留したあと、配水池から給水を行う。

弥彦村は統合浄水場から吉田送配水管を経由し、新設送水管を弥彦送水場(現弥彦浄水場)に接続して、弥彦配水池(低区・高区)から給水を行う。

送配水管整備の進め方では、工期内の確実な完了や、一時的な事業量増加などの課題を解決できるものとして、設計と施工を一括して発注する「管路DB方式」が有効であり、事業者の選定は技術提案に基づくプロポーザル方式を採用する予定で、設計企業、建設企業、地元企業、管材企業による四社の特定共同企業体による事業実施を基本に考えている。

今後は事業者選定に向けて、八月中旬に実施方針の公表とそれに関する説明会を、十月には募集要項などの公表・説明会を経て、来年一月の提案書類の受け付けからプレゼン・ヒアリング、事業者選定を進めて、三月に基本協定、四月には基本契約と設計業務委託契約を締結し、その後、三十二年度中までに工事請負契約締結の予定を進めている。



燕市議会水道事業更新対策特別委員会協議会

整備ルート、事業方針まとまる
総延長22キロ、管口径最大700ミリ
 設計期間
 除いて5年間で
 の整備想定

や地下埋設物の管理者と事前協議も行ってルートを選定したもので、総延長は約22.2キロで、管口径は最大で700ミリ。設計期間を除いたおおよね五年間での整備を想定している。



図 1.1 送配水管ルート

新たな活動や質的向上を目的 燕三条に全国「道の駅」

全国「道の駅」連絡会と三条市は九月二十七日午後二時から道の駅・燕三条地場産センター多目的大ホールで第七回全国道の駅「シンポジウムin三条」を開く。

シンポジウムは「道の駅」を受け、地域活性化の目的に開く。「駅」と地域産業が連携し、拠点として「道の駅」が内容に座談会、パネルディスカッションを経て、新たな活動や質的向上へ、振興のあり方について各の取り組みをいっそう深

「道の駅」は平成五年の制度開始から二十八年がたち、ことし四月二十五日現在の登録は全国で一千四百四十五駅に増えた。三条市は日本でも有数の金属加工を中心とする

協議会で示した送配水管ルート